

総合論文誌

第6号「地球環境と防災のフロンティア」

学術論文の募集

総合論文誌第6号掲載の学術論文を募集する。下記の要項を参照のうえ、来る2007年6月1日(金)までに応募されたい。会員諸氏からの積極的な応募を期待する。

2007年3月

総合論文誌委員会・プロジェクト編集委員会

総合論文誌刊行の目的

総合論文誌は、学術的、横断的テーマに関して会員の発表の場を拡大し、かつ、学会の社会的な責任を果たすことを目的としている。

総合論文誌の背景には、近年学問が細分化し広い視野に立った社会的インパクトのある論文が減少しており、専門家のための論文集になっているという根本的な問題意識がある。

本誌では、建築分野だけでなく工学、医学、社会科学、人文科学等の諸分野と連携して、学際的、横断的な取り組みが必要な諸課題を扱い、オピニオンの総合論文誌として育てていく。フロンティア的なテーマを設定し、そのテーマに即した幅広い論説、論文、事例、レビュー等を提示する。

テーマ「地球環境と防災のフロンティア」の背景と概要

サステナブルな社会の実現が求められるなか、環境保全、防災による安全・安心な生活環境づくりは、重要な課題である。地球温暖化で水害の危険性が増大し、地震災害にともなう瓦礫の処理のために山や谷が埋められ美しい自然が消滅し、大気汚染やCO₂排出が増大するなど、環境問題と災害が相互に関係した現象がしばしば見られる。また、太陽電池の利用は環境負荷低減に貢献するとともに非常時の電源としても役立つ。一方、河川や海岸の水害防止の護岸工事が生態系の破壊を引き起こすなど、計画やデザインの面でも環境、防災が両立するもの、トレードオフの関係にあるものなどに分類できる。これからの高齢化社会、人口減少社会の環境性、防災性を備えたサステナブルな生活環境づくりには、生活者の視点から総合的で両者の必要水準がバランスよく満たされる技術の活用が不可欠である。

地球環境と防災の総合的な取り組みによって、真のサステナビリティが実現できると考えると、その解決への道筋を示すことは建築学会にとっても重要な課題といえる。今回企画した総合論文誌第6号特集は、地球環境と防災の観点から、生活者の視点に立った、総合的な地域の生活基盤のあり方について論じることを試みるものである。

本号で取り組むべき具体的なテーマとしては、地球環境と防災を合わせて総合的に捉えることの必要性を明確化することと、両者の相互関係を整理することである。特に、両者の相互関係としては、以下のような事項が想定できる。

1——両者が直接関連する場合

●地震後の瓦礫が、環境を悪化させる

例) 大量に発生したコンクリートガラ等が、山や谷に埋められる粉塵、水質汚染、焼却処理によるCO₂増加など

●地震による破壊が水害を起こす

例) 自然ダムなど

●ヒートアイランドによる熱中症増加、健康リスクの増大

2——両者が相互に増大しあう場合

●環境破壊が災害危険を増大し、災害によりさらに環境破壊も増大する

例) 森林の破壊が水害や崖崩れの要因となる

地球温暖化が大雨、水害を引き起こす

3——両者のリスクが同じ方向性をもって増大する場合

●都市は人工的な仕掛けで環境容量を大きくすることで、居住人口を増大させてきた

●これらは災害危険を大きくするとともに、地域環境の負荷も大きくする(地球環境負荷という面からは、居住密度が高いことは必ずしも環境負荷を増大させるとはいえないが)

4——両者がトレードオフの関係になる場合

●防災対策を講じることが、環境負荷の増大につながる

例) 治水のために構築したダムにより、生態系が破壊される

以上のような分析を通して、リスクという共通の視点から地球環境問題、災害の特性を把握・評価することが考えられる。また、それらの分析に基づき、長期的、総合的な視点に立った、リスクを軽減するための良質なストックの確保、コミュニティ形成、情報基盤の構築など生活基盤のデザインの指針、手法などの枠組みを導くことも考えられる。

このように、サステナブル社会の実現が重要視されるなか、そのなかでの生活環境づくりに関わる建築学会の役割は極めて大きいといえる。これからの高齢化社会、人口減少社会、逆都市化が進むなかで、そのプロセスにあわせた地球環境・保全を実現する社会へと再構築するための枠組みを提示することは建築学会の緊急の課題である。この意味からも今回の総合論文誌第6号は、まさに時宜を得た特集と言える。

学術論文の募集要項

論文執筆要領などの詳細はホームページの「総合論文誌委員会」の欄を参照のこと。

<http://www.aij.or.jp/jpn/comm/IndexTop.htm>

1 | 論文のテーマとセッション

「地球環境と防災」を公募論文のテーマとする。以下のセッションおよびキーワード群から中心となる項目を選び(セッションは一つ、キーワードは複数可)、分析・調査、理論の構築・検証、課題解決方策提案などを展開すること。

1——セッション

①環境問題と災害現象の相互メカニズム

②環境と防災を考慮した都市づくり、まちづくり

③環境と防災を考慮した地域づくり、中山間地づくり

④環境と防災を考慮した建築デザイン

2——キーワード

(a) 地震・津波、(b) 気候・気象災害、(c) 土砂災害、(d) 地球温暖化、(e) 生態系破壊、(f) ヒートアイランド、(g) 大気汚染、(h) 水質汚濁、(i) 森林・植生・土壌、(j) 地盤・地質、土砂、(k) 河川、流域、(l) 風の道、(m) オープンスペース、(n) 都市インフラ、(o) 情報システム、(p) 構造、(q) 計画、(r) 設計、(s) マネジメント、(t) 社会制度・法制度、(u) その他

2 | 応募資格 著者のうち少なくとも一人が本会会員(個人)であること。

3 | 採択件数 10編程度

4 | 論文の採否

審査は2段階方式を採用する。第1次査読は概要で行い、第1次査読を通過したものに対して、第2次査読を論文(フルペーパー)にて行う。審査は総合論文誌委員会およびプロジェクト編集委員会が担当する。

5 | 原稿の提出

1——第1次査読原稿: 概要3部(A4判用紙で800字以内、セッション、キーワード、執筆者名、所属、専門分野、住所、電話、E-mailを明記)

- 2——第2次査読原稿:論文3部(フルペーパー:基準頁4頁、超過頁は2頁まで可)
- 3——本会は原稿の作成費を負担しない。

6|原稿の取り扱い 審査のため提出された原稿は原則として返却しない。

7|応募原稿締切

- 1——第1次査読原稿は2007年6月1日(金)17:00必着
- 2——第2次査読原稿は2007年8月2日(木)17:00必着

8|著作権について

- 1——著者は、掲載された学術論文・質疑討論の著作権の使用を本会に委託する。ただし、本会は第三者からの文献等の複製・引用・転載に関する許諾の要請があった場合は原著者に連絡し許諾の確認を行う。
- 2——著者が、自分の学術論文・質疑討論を自らの用途のために使用することについての制限はない。
- 3——図・表・写真などの引用・転載にあたっては、著者自身が原著者などの著作権所有者の許可をとらなければならない。なお、掲載された学術論文・質疑討論は本会および関連するサーバーで、電子形態によって全文公開されるので留意すること。
- 4——編集出版権は、本会に帰属する。

9|登載料、超過頁料金、カラー印刷掲載料金

採用された学術論文に対して登載料10,000円を徴収する。また、超過頁料金およびカラー印刷掲載に要する費用は規定に従い著者が別途負担する。

10|別刷 学術論文および質疑討論の別刷は有料にて頒布する。

11|その他

本誌に掲載される「学術論文」等の発表会を検討しています。実施する場合、詳細は追って連絡いたします。

原稿提出先・問合せ

事務局総合論文誌委員会担当/安 裕和
〒108-8414 東京都港区芝5-26-20
TEL03-3456-4135 / FAX03-3456-2058

委員会

総合論文誌委員会

- 委員長——安達 洋(日本大学)
- 幹事——安藤正雄(千葉大学)、河村 廣(神戸大学名誉教授)、福和伸夫(名古屋大学)
- 委員——稲田達夫(三菱地所設計)、河田克博(名古屋工業大学)、後藤春彦(早稲田大学)、坂上恭助(明治大学)、多治見左近(大阪市立大学)、平石久廣(明治大学)、松井 勇(日本大学)、水谷章夫(名古屋工業大)、門内輝行(京都大学)、山崎正史(立命館大学)

第6号プロジェクト編集委員会

- チーフエディター——岩田 衛(神奈川大学)
- サブエディター——稲田達夫(三菱地所設計)
- 編集委員——澤田雅浩(長岡造形大学)、竹内 徹(東京工業大学)、東 清仁(清水建設)、松井正宏(東京工業大学)、森山正和(神戸大学)

刊行時期・配布

この総合論文誌は2008年2月に刊行し、『建築雑誌』2008年2月号とともに全会員へ無料で配布いたします。

バックナンバー

第1号から第5号の『総合論文誌』を販売しております。書名を明記のうえ、巻末の「日本建築学会図書注文書」にてお申し込みください。会員特価1,350円、送料無料

- 第1号 地球環境建築のフロンティア
- 第2号 災害からの復興と防災フロンティア
- 第3号 景観デザインのフロンティア
- 第4号 情報化の視点からみた建築・都市のフロンティア
- 第5号 建築ものづくりのフロンティア

申込み・問合せ

日本建築学会 資料頒布所
TEL03-3456-2018 / FAX03-3456-2058
<http://www.aij.or.jp/jpn/publish/publish-menu.htm>